

リスク管理

現代に生きるというのは、意に反しての事態、つまりリスクの存在を前提に活動したり生活したりすることを覚悟することにはかならない。それでは、このような日常化したリスクに対しどのように対処していけばいいのであろうか？

◇

リスクは不確実な出来事であり、残念ながらそれをすべてコントロールすることは出来ない。リスクに対処するということは、不確実な未来の出来事に対しその結果を予測しながら自らの対応を今の時点で自らが決断し、不幸な結果の回避のための行動を起こすことである。

リスクは自らが望んでいるかいないかとは関係無く存在しており、この世の無常と無情を痛切に

リスクマネジメント

A B C

総論④

ことわざに見る处世術、果たして現代の企業活動では…

- ①無視：くさいものにふたをする、見ざる聞かざる言わざる
- ②逃避：三十六計逃げるに如かず、人を見たら泥棒と思え
- ③転嫁：転ばぬ先のつえ（つえは大切、でも転倒だけがリスクではない）
- ④模倣：柳の下のだじょう、赤信号みんなで渡れば怖くない
- ⑤挑戦：出るくらいは打たれる

感じさせる不幸な結果を我々に与える。更には、わが身だけではなく、そ

れによって無関係な人々にさえ重大な被害をもたらすことさえある。

さて、わが身に降りかかるリスクの存在を認識したとき、人はどのように行動するであろうか？

それは、次のようなパターンに分類出来る。

①無視 起こるかどうかわからないのだから

と、無視する態度。その結果、自分が被害を受けるのは自業自得にしても、当事者でない第三者に被害を与えた時は当然ながら、その報いを受けなければならぬ。

②逃避 とにかくリスクの臭いがする時には、そこに近づかないという態度。それでも逃れられないリスクが多く

存在するこの競争社会で、リスクを積極的に取らずに企業活動が出来るのか、という疑問は残る。

③転嫁 誰かにリスクを肩代わりしてもらう態度。多くは保険を掛けるという行為になる。

でも企業が本当に転嫁したいリスクは、保険会社も受けてくれない。企業リスクのうち保険でカバーされるのは、一割にも満たないというのが通説。

④模倣 他人がした結果を見て、それに便乗しようとする態度。他人の成功は、自分の成功を約束するものではないというのが、リスクのリスクたるゆえんなのだが…

⑤未来への挑戦 未来は不確実であることを認識しつつ、その時点での情報を十分に活用して望ましい結果へ向けての方策を考え、それでも被るかもしれない最悪事態の対処も考慮して、今時点の自らの行動を決める態度。

我々は、自らの責任の下に上記五つの態度のどれを取るかを決めなければならない。それがリスクをマネジメントするということである。

決してリスクに立ち向かうような生活をしていないと考えている人にも、例えば地震のようなリスクが存在する。当然、現在と未来を積極的に生きるには、他の人以上のリスクを覚悟しなければならぬ。それが、現代を生きているということである。

(日本総合研究所)

5つの態度あなたは…